俳句

## 大津俳句会

カルデラの器の欠けし時雨かな　井芹眞一郎

一と年の重みを散らす紅葉かな　秋山　恵子

蔓引けば連らなり現るる烏瓜　市原　初女

枝先にしっかり薄く帰り花　大塚喜久子

少しづつ紅葉初めたる雑木山　坂本　セキ

緑側に今日も老犬日向ぼこ　佐賀　久子

秋の蚊のしぶとくまとふ針さげて　松尾　昭雅

軽やかに産声上がる小春かな　渡邊佳代子

しっとりと濡らす飛石初時雨　岡崎　浩子

俳句

## つのはな句会

お神楽のぴーひゃら集落（むら）を消しに来る　星永　文夫

小春日や水道町を杖と行く　塚本　洋子

肥後に来てばらけ始めた鰯雲　栄田しのぶ

萩こぼる病床日記残る部屋　志賀　孝子

柿熟れて柿の村には人絶えて　田上　公代

検査待つ椅子の背寒い金曜日　木庭　杏子

無添加の青空に置くいわし雲　上杉　波

角ごとに詐欺師顔出す神無月　矢嶋　道子

らっかせいひとりぼっちはさみしいね　水野　春子

数珠玉をあつめて風の中にいる　梅木トキエ

短歌

## 大津短歌会

月一のミニデイ待って吾は日々
衰え癒し為して励げまん　管野　静

夏草に埋もれ静けし豊肥線
線路は未だ阿蘇へと続く　吉永　恵子

噴水のトンネル潜る會孫等は
ずぶ濡れ厭わず歓声あぐる　豊岡ミツル

満州（いこく）にて幼子亡くせし若い母
吾をお腹に帰国を果す　鞍　岳志

厭いたるスマホに替えむと決めし我
どこか浮き立つ気分になりて　渡邊佐代子

白鳥の如くに生きし吾が恩師
笑みを残して旅立ちにけり　小平　善行